

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：27101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370494

研究課題名(和文) 多国籍アングロフォンコミュニティの言語変化と社会的ネットワークモデルの構築

研究課題名(英文) Language change in a multinational Anglophone community and building a model for social network analysis

研究代表者

平野 圭子 (Hirano, Keiko)

北九州市立大学・外国語学部・教授

研究者番号：60341286

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は日本の多国籍アングロフォンコミュニティで英語方言接触によって誘発される言語的アコモデーションに着目し、話者の社会的ネットワークの影響力を考察した。「義務」と「所有」を表す英語表現に焦点を当て統計分析を行った結果、話者の出身国やソーシャルネットワークにより、他の英語パラエティへのコンバージェンスとダイバージェンスの両方が見られた。本研究はコミュニティ内での言語変化のメカニズムを明らかにし、方言接触の影響と個々の話者に起こる言語アコモデーションを説明する上での話者のネットワークの重要性を提示した。

研究成果の概要(英文)：This real-time study investigated social network related dialect contact and linguistic accommodation in the use of verbs expressing obligation and possession in a multinational Anglophone community in Japan. A statistical analysis revealed that these speakers demonstrated both convergence and divergence after a year in Japan depending on their national group and their social networks. The present study demonstrated the mechanisms of this linguistic change in the community and the importance of social network in accounting for the consequences of dialect contact and linguistic accommodation.

研究分野：社会言語学

キーワード：多国籍アングロフォンコミュニティ 言語変化 社会的ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

人の移動による言語的接触、特に方言接触がもたらす言語変化研究では、多種多様な方言要素が統廃合される過程において、方言話者の人口比率や様々な社会的要因、言語的特徴等が大きく影響すると考えられている (Trudgill 1986, 2004)。近年ではグローバリゼーションに伴い人とことばのモビリティが飛躍的に向上し、多言語、多方言の接触が日常的な環境でより頻繁に起こるようになった。

日本の多国籍アングロフォン(英語母語話者)コミュニティ内における英語の言語的接触もそのひとつだ。申請者は日本のアングロフォンコミュニティ内の多種多様な英語変種の接触による言語変化に着目し、英語母語話者の発音変化を調査してきた (Hirano 2013)。他の英語母語話者との接触による発音変化、また非英語母語話者との接触による発音変化を話者の社会的ネットワーク (Milroy 1980) の観点から研究し、特定の社会的ネットワークの強さと特定の発音変化の間に統計上有意な相関関係のあることが確認された。本研究では未着手の文法面での変化を調査・分析し、先行研究で得られた発音変化の結果と共に日本の多国籍アングロフォンコミュニティ内の英語のバリエーションと変化を明らかにした上で、話者の言語行動と社会的ネットワークの関係を詳細に検討した。

2. 研究の目的

本研究の目的はことばの変化のメカニズムを解明し、人のことばの変化には話者の複雑な人間関係が強く影響を与えることを立証した上で、社会的ネットワークモデルを構築することにある。本研究はグローバリゼーションに伴い人とことばのモビリティが向上した結果もたらされた日本の多国籍アングロフォン(英語母語話者)コミュニティ内における英語の言語的接触に焦点を当て、以下の3点を重点的に遂行する。日本の多国籍アングロフォンコミュニティ内における言語変化を調査し、このコミュニティ独自の言語特徴を明らかにする。言語的な接触環境にあるコミュニティの場合、話者の複雑な人間関係が言語変化に与える影響がいかに大きいかを実証する。言語研究に応用される従来の社会的ネットワーク理論を発展させ、言語のバリエーションと変化を解明するために有効な、より多面的で細分化された社会的ネットワークモデルを構築する。

3. 研究の方法

本発表の被験者はイングランド、アメリカ、ニュージーランド出身の英語母語話者約40人で、来日直後と一年後に同じ出身国のペアによる自然談話を収集し、合計34時間分の言語データより約500個の「義務を表す英語表現」と約1000個の「所有を表す英語表現」(Tagliamonte 2013)を採取した。また来

日一年後の自然談話録音後に個々の被験者にインタビューし、日本滞在中に築いた多種多様な社会的ネットワークについての情報を収集した。

平成26年度は「義務を表す英語表現」を中心にデータ入力と分析を行うと同時に、必要な文献調査、資料・情報収集を行った。統計処理に有用な知識と技術を習得し、統計ソフト(SPSS)を使って言語のバリエーションと変化をあらゆる角度から詳細に分析を試みた。具体的には、言語コーパス(実時間調査によって得られた英語母語話者の自然談話録音データ)より、「義務を表す英語表現」の分析対象使用例を抽出し、言語内的要因や被験者の社会的属性・社会的ネットワークをコード化したものとともに、統計ソフトのデータファイルに入力する作業を行った。その後統計用ソフトSPSSのペアサンプルのT検定、ピアソン相関係数、重回帰分析等の統計手法を用い、各話者の英語の文法的なバリエーションと起こりつつある言語変化、国籍別グループの「義務を表す英語表現」のバリエーションと変化の傾向、言語変化と社会的ネットワークの関係等を分析した。平成27-28年度は「所有を表す英語表現」に焦点を当てデータ入力作業を行い、「義務を表す英語表現」の分析と同様の方法で統計分析を行った。特に社会的ネットワーク理論を用いて、言語変化との関連性を追究した。

4. 研究成果

(1) 今日のグローバリゼーションにともない人や物が容易に移動できるようになったこと、すなわちモビリティ向上の結果もたらされた現代社会特有の言語現象を本研究は追究した。人とともに言語が移動し多種多様な言語や方言が特定の地域に混在するようになった結果、様々な言語や方言同士が接触し合いことばに変化が生じる。本研究で「義務を表す英語表現」と「所有を表す英語表現」の2つの言語変数の統計分析を出身国別に行った結果、国により異なる結果が観察された。イングランド人の被験者はどちらの言語変数においてもアメリカ英語で最も頻繁に用いられるフォームの使用率が減少し、イギリス英語やオーストラレーシア英語で頻繁に使用されるフォームの使用率が一年後に増加した。すなわち、イギリス英語をより特徴づける方向へと変化し、アメリカ英語からのダイバージェンスが起こっていた。一方アメリカ人は変数によってイギリス英語やオーストラレーシア英語へのコンバージェンスと、よりアメリカ英語の特徴を際立たせるダイバージェンスの両方が観察された。またニュージーランド人はいずれの変数においてもアメリカ英語で最も頻繁に用いられるフォームの使用率が増加しており、アメリカ英語へのコンバージェンスが起こっていた。この結果から、文法的なコンバージェンスはたとえ起こるとしても、音韻的なものと比較す

るとより長い時間を要することが示唆される。現代日本に存在する多国籍アングロフォンコミュニティの言語行動を調査することで、現在進行中の言語変化のメカニズムの一部を解明できたと考える。

(2) 本研究は言語のバリエーションと変化を説明するために社会的ネットワーク理論を用いた。話者の社会的ネットワークを具体化させるためには、話者の生活や交友関係にかかわる情報を詳細に記述する必要があり、話者とのインタビューを通して得られた情報から、話者一人ひとりの社会的ネットワークを具体化した上でそれを数値化し、言語変化の分析に活用した。個々の話者の言語変化の方向や増減の幅は一樣ではなく、出身国別の結果と必ずしも一致するものではない。社会的ネットワークの分析により、それぞれの話者が日本滞在中に築いた社会的ネットワークのタイプやその強度が、その話者の言語変化の方向や大きさに強い影響を与えることが判明した。言語研究に有効でかつ現代社会の複雑な人間関係をより正確に反映し、多面的で細分化された社会的ネットワークモデルを提案することが出来た。

(3) 日本のような非英語圏においても英語方言接触の結果言語変化が起こっていることを本研究は立証した。公用語として英語が用いられる英語圏では方言の顕著な優劣関係が既に存在していることが多く、方言接触後の話者の方言変化はある程度予測可能なことが多い。しかし日本のような多種多様な英語変種の話者が対等な立場で接触し合う非英語圏においては既存の優劣関係は存在しないため、方向性は予想出来ない。日本のような非英語圏で起こっている英語方言接触の過程・実態を観察・分析できたことは意義のあることと考える。

参考文献

- Hirano, K. (2013). *Dialect Contact and Social Networks: Language Change in an Anglophone Community in Japan*. Frankfurt: Peter Lang.
- Milroy, L. (1980). *Language and social networks*. Oxford: Blackwell.
- Tagliamonte, S. (2013). *Roots of English: Exploring the history of dialects*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Trudgill, P. (1986). *Dialects in contact*. Oxford: Blackwell.
- Trudgill, P. (2004). *New Dialect Formation: The Inevitability of Colonial Englishes*. Edinburgh: Edinburgh University Press.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- ① 平野 圭子. アングロフォンコミュニティにおける「義務を表わす英語表現」のバリエーションと変化. 社会言語科学会『第38回大会発表論文集』. 2016年. pp. 106-109.
- ② Hirano, K. A new-dialect formation in an L2 setting: A rudimentary levelling among native speakers of English in Japan. *Online Publication of the 19th International Congress of Linguists, 2013. University of Geneva, Switzerland*. 査読有. 2015年. 全11ページ. <http://www.cil19.org/abstract/contribution/529/>.
- ③ 平野 圭子. 英語母語話者の言語生活と日本語の発音. 社会言語科学会『第36回大会発表論文集』. 2015年. pp. 126-129.

〔学会発表〕(計 6 件)

- ① Hirano, K. Convergence or divergence?: Social network and grammatical variation in a community of expatriate English speakers. The 21st Sociolinguistics Symposium. 2016年6月16日. Murcia (Spain).
- ② Hirano, K., and Britain, D. The effect of social networks on the dialect grammar used by speakers of English: Variation and change in possessive verbs. Language Variation and Change Network Forum 2016. 2016年5月28日. 九州大学(福岡県福岡市).
- ③ Hirano, K. Grammatical variation in a dialect contact situation: Accommodation of verbs of obligation. The 8th Conference of the International Society for Dialectology and Geolinguistics. 2015年9月17日. Famagusta (North Cyprus).
- ④ Hirano, K., and Britain, D. The influence of social networks on grammatical variation: Verbs of obligation produced by native speakers of English in Japan. Language Variation and Change Network Forum 2015. 2015年5月30日. 福岡大学(福岡県福岡市).
- ⑤ Hirano, K., and Britain, D. Accommodation, dialect contact and grammatical variation: verbs of obligation in the Anglophone community in Japan. The 3rd Conference of the International Society for the Linguistics of English. 2014年8月24日. Zurich (Switzerland).
- ⑥ Hirano, K. Code-switching in the Anglophone community in Japan. The 15th International Conference on Methods in Dialectology. 2014年8月12日. Groningen (The Netherlands).

〔図書〕(計 2 件)

- ① Hirano, K., and Britain, D.他. *New Approaches to English Linguistics: Building Bridges*. Amsterdam: John Benjamins. 査読有. 2016年. 326 (pp. 13-33).
- ② Hirano, K. 他. *Language contacts at the crossroads of disciplines*. Newcastle upon Tyne: Cambridge Scholars Publishing. 査読有. 2014年. 415 (pp.215-250).

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

平野 圭子 (HIRANO, Keiko)
北九州市立大学・外国語学部・教授
研究者番号：6 0 3 4 1 2 8 6

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

BRITAIN, David ()
University of Bern